

教 育 研 究 業 績 書		
令和7年 4月 1日		
氏 名 岡 崎 満 希 子 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キーワード	
心理学、教育学	発達心理学、言語発達学、発達障害、特別支援教育	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
① 実践的講義～子どもとの実際の関わりを通じた学び	平成31年4月 ～令和4年3月	子どもの発達とそのアセスメント、支援方法に関する講義において、実際に子どもとその保護者に来校いただいた。学生は、子どもへの発達検査や遊び、保護者面接を通してアセスメントしたり、支援方法を考えたりすることを体験する。これらを通して子どもの発達状況を把握する力を養うとともに、保護者支援についても学ばせることが可能となった。
② 地域連携による教育実践	平成26年4月 ～令和4年3月	地域との連携に基づいて、保育園や児童発達支援事業所へ体験実習を実施したり、地域の子どもとその保護者を大学に招き、直接の関わりを通して体験的に学ぶ機会も作ってきた。
③ アクティブラーニングによる教育実践	平成26年10月 ～現在	講義への主体的な参加を促すため、グループディスカッションを積極的に取り入れている。そこでは、学生が互いに意見を交換し、考察を深められるよう教員がコーディネートすることによって、より良い学びとなるよう支援している。
2 作成した教科書、教材		
① 視聴覚教材～乳幼児の発達学習用	平成31年4月 ～令和4年3月	子どもが遊ぶ様子や検査を受けている様子を撮影した教材を4種類作成した。子どもの発達を把握し、関わりを工夫するためにどうすれば良いか、学生が段階を追って学べるよう工夫した。
② パワーポイント形式による授業資料の作成	平成26年4月 ～現在	講義では、既存の教科書だけでなく、自身で最新の情報を盛り込んだパワーポイントを用いている。
③ 自主学習用教材	令和4年4月 ～現在	講義を受講後に学生自身が取り組むための、マーク式テスト教材である。各自が講義の理解度を確認できるように工夫したもので、講義の復習となるだけでなく、次回の講義理解にも役立つものとした。

3 教育上の能力に関する大学等の評価 白鳳短期大学 大阪保健医療大学 大和大学 桃山学院大学	平成 28 年 4 月 平成 30 年 4 月 平成 31 年 4 月 令和 4 年 4 月 令和 4 年 4 月～現在	講師 准教授、専攻科長 准教授 教授 上記いずれの大学においても、子どもの発達領域に関する業務（講義、演習、実習、国家試験対策、就職関連、教務等）全般を担ってきた。 教職課程「心理学 A」「心理学 B」担当
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ① 乳幼児の精神発達とその支援 ② 学校教育への支援 ③ 実習指導	平成 14 年 4 月～現在 平成 29 年 4 月～現在 平成 26 年 4 月～現在	地方自治体における母子保健事業である 1 歳 6 か月児健康診査、3 歳児健康診査等における発達相談を通して、家族支援に携わるとともに、幼稚園・保育園・療育施設との連携、巡回指導、親子教室の運営にも携わってきた。このような経験をもとに、子どもの精神発達、特に発達障害について、そのメカニズムを明らかにするとともに、発達のアセスメントや支援方法についても研究対象としている。 特別支援学校（視覚支援学校）外部専門家として、学校教育に携わってきた。そこでは、幼稚部から高等部の児童、生徒まで、多様な発達段階と発達特性に応じた支援を行うことが求められる。こうした経験をもとに、現在、「チームとしての学校」の一員としてそれぞれがその専門性を発揮しながら協働するには、どのようなことが求められるか研究を進めている。 実習の事前指導及び事後指導、さらに実習施設巡回指導等を行っている。そこでは、直接現場で指導いただく先生方と緊密に連携しながら、学生一人一人が確かな知識と技能、さらに現場を担う意識を身につけることができるよう指導している。

④ 国家試験対策	平成 26 年 4 月 ～令和 5 年 3 月	学生一人一人の学習状況に合わせて指導方法を工夫しながら、コースの学生全員が国家資格を取得するという目標に向けて指導してきた。特に、成績の伸び悩む学生についてはグループ指導や個別指導を実施し、学生の国家試験合格に貢献した。
⑤ 講演「小児発達検査・知能検査の実際－言語発達遅滞検査の臨床について」大阪府高槻市立養護学校	平成 15 年 8 月	教員を対象とした研修において、発達検査と知能検査の実際について講演した。
⑥ 講演「発達相談の現場から」神戸女子大学	平成 19 年 12 月	母子保健事業における心理発達相談、および保育現場との連携について講演した。
5 その他		
① 学位論文指導	平成 26 年 4 月～ 平成 30 年 10 月 令和 4 年 4 月～ 令和 5 年 3 月	学位（学士）論文指導
② 卒業研究指導	令和 5 年 4 月 ～現在	卒業研究指導
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 ① 幼稚園教諭一種 ② 小学校教諭一種 ③ 言語聴覚士 ④ 臨床発達心理士 ⑤ 公認心理師	平成 3 年 3 月 平成 3 年 3 月 平成 14 年 5 月 平成 26 年 4 月 平成 31 年 2 月	免許状（平二幼一め第一二一号） 免許状（平二小一め第三七五号） 登録（第六四五八号） 登録（第 03630 号） 登録（第 6587 号）
2 特許等 なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 ① 母子保健事業（乳幼児健康診査）における発達相談、親子教室運営、地域連携等（高槻市、池田市、茨木市）	平成 14 年 4 月 ～平成 26 年 3 月	地方自治体における母子保健事業である、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、就学までの経過観察健康診査における発達相談を通して家庭支援に携わるとともに、保育園・幼稚園・療育施設との連携、乳幼児親子教室の運営にも携わった。 特に、池田市においては、1歳6か月児、3歳児相談の大半を受け持ったことから、市内の発達障害児の早期発見早期対応に全面的に関わるとともに、要保護児童地域対策協議会にも参加した。

② 療育事業の立ち上げ、発達支援業務（高槻市）	平成 14 年 4 月 ～平成 16 年 9 月	知的障害児通園施設の立ち上げに携わるとともに、特別な支援を要する幼児への発達支援業務に携わった。
③ 児童発達支援事業における保育支援業務 （奈良県北葛城郡王寺町 社会福祉法人白鳳会）	平成 26 年 10 月 ～平成 29 年 3 月	児童発達支援事業において保育アドバイザーを務め、療育に関するコンサルテーションを担った。
④ 母子保健事業 発達相談員 （海南市）	平成 30 年 4 月 ～令和 4 年 3 月	地方自治体における母子保健事業である、1 歳 6 か月児健康診査、3 歳児健康診査、および、5 歳児健康診査に伴う発達相談を通して家庭支援に携わるとともに、特別な支援を要する子どもへの対応とその後の処遇に関して、幼稚園・保育園・療育施設の各教職員、および保健師に助言を行なった。
⑤ 特別支援学校 外部講師 （大阪府）	平成 29 年 4 月 ～現在	視覚障害と何らかの発達上の課題を併せ有する、幼稚部～高等部の児童、生徒への指導に関し、主に言語・コミュニケーションの側面から、教員への助言を行っている。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 保育の心理学 — 子ども理解を ケアにつなげる	共	令和7年3月	教育情報出版	「教育の基礎的科目の理解」に係る教育心理学、発達心理学のテキストである。将来、教育や保育を担う学生が、子どもの姿や教育場面を心理学的な観点から理解できるようになることを目的として作成された。第6章2節「認知の発達」、第7章3節「自己の形成と他者理解」について執筆し、発達の基礎である認知発達と社会性の発達について、初学者向けに執筆した。
2 こどもまんなか 社会に活かす 「子ども家庭支 援の心理学」	共	令和7年3月	晃洋書房	生涯発達から見た子ども時代の重要性和、今日の子育てを取り巻く社会的状況に即した、子どもとその家庭の理解、支援について学ぶためのテキストである。第12章「特別なニーズがある家庭とその理解」を担当し、障害を伴う子どもや明らかに障害とは診断されないが発達上の課題を有する子どもとその家庭、虐待の疑いのある家庭、外国にルーツのある家庭等に関する理解と支援方法について執筆した。
(学術論文) 1 乳幼児健診にお ける発達障害の 把握と支援に関 する一考察	単	平成27年3月	白鳳女子短期大学紀要 第9号	乳幼児健康診査は、幼児期の身体発育、精神発達の面で歩行や言語等発達の標識が得られる1歳6か月児と、発達の個人差異が比較的明らかになる3歳児のすべてに対して実施される。本稿では、乳幼児健康診査における心理相談の一事例を通して、① 障害の把握と支援を行う上で必要な、発達を捉える視点について述べ、②子どもの発達特性に応じた保育が可能となるような支援のあり方について考察を加えた。
2 児童発達支援事 業におけるコン サルテーション の事例から	単	平成28年3月	白鳳短期大学紀要第 10号	「児童発達支援事業」は、身近な地域で受けられる療育の場である。本稿では、ある児童発達支援事業施設において実施した、臨床発達の視点からのコンサルテーションを通じ、そこにおいて認められた教育そのものの質的变化、子どもの変化、教育者自身のエンパワーメント等について考察してい

氏名 岡崎

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
3 乳幼児期における象徴遊びの発達について―「言葉」と「人間関係」の育ちのために	単	平成29年3月	白鳳短期大学紀要第11号	る。 乳幼児期にみられる象徴遊びは、言葉の発達のみならず抑制機能や他者視点の理解など、社会情動的発達に関わることが明らかになってきた。本論文では、乳幼児期における象徴遊びの発達の意義について考察することを目的とし、①抑制機能や他者視点の発達と関係の深い自己認識について検討し、②自己認識の育ちを支える象徴遊びを軸とした象徴機能の発達の道筋を示した。
4 発達上の課題を有する聴覚障害児のことばの発達とその支援に関する一考察	単	平成30年3月	白鳳短期大学紀要第12号	第二回聾学校全国調査によると、全国の聾学校に在籍する児童の約 37.4%に、何らかの発達上の課題があり、このうち学習面で著しい困難を示す児童は 32.9%である。本稿では、聴覚障害児における心理的特性と学習面における困難について、とくに言語獲得と読み書き能力の発達における課題について概観し、発達評価と支援についての考察を試みた。
5 視覚障害児の多様性に応じた教育について～特別支援学校（視覚障害）を中心に	単	令和6年3月	信愛紀要第65号	視覚障害児の約 85%が特別支援学校（視覚障害）に在籍し、その内の 65%程度が他の障害を伴う。そのため、個々の子どもにおける視覚の状態と、重複する障害等への対応が求められる。外部専門家として関わってきた経験から、視覚障害児教育に求められる子どもへのアセスメント、および、教育現場の専門性を高める取り組みについて提案するとともに、インクルーシブ教育についても言及した。
6 特別支援教育における教育支援体制の現状～幼稚園、保育所、認定こども園について	単	令和7年3月	信愛紀要第66号	本論文は、幼稚園、保育所等に在籍する特別な支援を要する幼児への教育支援体制の現状について、文部科学省や厚生労働省の報告書をもとに整理したものである。特別支援教育は、個別の教育的ニーズへの対応、及びインクルーシブ教育の実践を基本理念とし、個別の指導計画の作成や外部機関との連携が重要視されている。しかし、現段階では、そうした具体的な戦略は必ずしも十分でない。こうした課題を解決

氏名 岡崎

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
				するために必要な仕組みとして、①特別支援教育を担う人材の育成と、②支援に携わる者同士が定期的に集う場の設定が必要と考える。
(その他) 「学会発表」				
1 乳幼児健康診査における象徴機能の発達評価ー地域の母子保健事業における言語聴覚士の役割	単	平成 29 年 9 月	第 18 回 日本言語聴覚学会（抄録）言語聴覚研究第 14 巻 3 号	言語発達の基礎となる象徴機能の発達について、その評価方法を提示し、地域の母子保健事業における、言語聴覚士の役割について論じた。
2 言語獲得過程のアセスメントーことばが出ていない子どもを支援するために	単	令和 3 年 8 月	第 63 回 教育心理学会（抄録）第 63 回総会発表論文集	乳幼児健康診査における発達相談と、特別支援学校における外部講師としての実践を踏まえた報告である。ことばが出る以前から言語を獲得するまでの発達の特徴を整理した上で、ことばが出ていない子どもを支援する方法について提案した。
3 特別支援教育における外部専門家の役割ー視覚支援学校での相談事例を通して考えたこと	単	令和 4 年 8 月	第 18 回 日本臨床発達心理士会全国大会（学会抄録査読付）	特別支援教育（視覚支援学校幼稚部～高等部）に関わってきた経験の一部をまとめ、幼児、児童、生徒らの発達を適切に支援するために外部専門家が出来ることや今後の課題等について考察した。そこでは、チーム学校における教員と外部専門家の連携についても言及した。